

開館20周年記念特別展

2025 3月15日(土)～5月25日(日)

東山焼と 姫路のやさもの

Tōzan Ware and
Himeji Pottery



1 東山《染付騎馬人物鹿図鷺耳花瓶》江戸時代後期～明治時代前期（19世紀）兵庫陶芸美術館（北後豐子氏寄贈）

2 東山《青磁獅子形水滴》江戸時代後期～明治時代前期（19世紀）姫路市書写の里・美術工芸館

3 東山《染付祥瑞写山水図水指》江戸時代後期～明治時代前期（19世紀）兵庫陶芸美術館

4 永世舎《青釉染付遊魚図大花瓶》明治時代前期～明治時代中期（19世紀後半）個人蔵

5 永世舎《色絵雲龍図耳付扁壺（対）》明治時代前期（19世紀後半）個人蔵

6 『温知図録』第4輯 陶磁器部 15 明治10～13年（1877～1880年）東京国立博物館 Image:TNM Image Archives

7 永世舎《色絵烏瓜図花瓶》明治時代前期（19世紀後半）兵庫陶芸美術館

8 鷺脚（初代）《貼花茅屋山水図煎茶器（7点組）》明治時代～大正時代（19世紀後半～20世紀前半）姫路市書写の里・美術工芸館



土と語る、森の中の美術館
兵庫陶芸美術館
The Museum of Ceramic Art, Hyogo

兵庫陶芸美術館開館 20 周年記念特別展 東山焼と姫路のやきもの

東山焼は、文政 5 年(1822)に姫路城の南東に位置する、播磨国飾東郡東山村(現・兵庫県姫路市東山)の興禅寺山東麓で操業を始めました。当時、姫路藩の家老・河合道臣(1767～1841)は、赤字に悩む藩の財政を立て直すため、姫路木綿や革製品などの特産品を全国に販売しましたが、東山焼にも着目して開窯当初から藩の管理下に置き、正貨の藩外流出にも意を払いました。

当時的高级ブランド品であった京焼の最新の意匠と、一大生産地の肥前有田から窯業技術を取り入れ、青磁や染付を中心に磁器から陶器まで多岐にわたって焼造しました。興禅寺山窯では青磁と染付を中心に、そして男山窯では染付が主に焼かれ、特に古染付写しや祥瑞写しなどの染付に優品が多く見られます。

幕末には姫路城下の豪商六人衆に経営が引き継がれ、明治 4 年(1871)の廃藩置県を契機に規模の縮小はみられるものの、明治時代にも作り続けられました。

永世舎は、明治 10 年(1877)に士族授産の目的で大蔵前町(現・塩町及び十二所前町)に設立されました。肥前大川内の陶工・柴田善平(生年不詳～1902)の指導を仰ぎ、旧姫路藩士に加えて東山焼の陶工、画師なども作陶に携わりました。主に輸出用の色絵製品が作られ、同 21 年(1888)頃まで操業されました。また、永世舎の陶工・中川勇次郎(1849～1922)は、明治 14 年(1881)に自宅の小姓町で、精緻な竹べら細工が特徴的な陶器を中心とする鷺脚焼を始めました。

本展では、近世後期から近代に花開いた、東山焼・永世舎・鷺脚焼などの姫路のやきものを紹介します。

展覧会の見どころ

1. 東山焼のさまざまな優品を紹介

開窯当初から姫路藩の管理下に置かれた東山焼は、器面に繊細な筆致で山水や幾何学文様が描かれた染付に加え、翡翠を思わせる淡い青緑色の青磁が特徴的です。鷺耳花瓶や燭台、水指などの「ハレ」のうつわだけでなく、広く流通していた碗や皿、鉢、徳利などの日用のうつわまで、各地の美術館や博物館、個人が大切に伝えてきた多種多様な優品が一堂に会します。

2. 永世舎と『温知図録』に注目

華やかな色絵や鮮やかな青釉が特徴的な永世舎の作品は、明治時代前期に欧米諸国や国内で開催された万国博覧会や内国勸業博覧会に向けて、明治政府が作成した図案集『温知図録』に掲載されている形や図様などを模したものが数多くみられます。明治新政府が陶磁器を殖産興業のひとつとして捉え、振興を図った当時の記録とあわせてご紹介します。

3. 姫路名産と称えられた鷺脚焼

永世舎の陶工であった中川勇次郎が創業した鷺脚焼は、各地の博覧会で数多くの賞を受賞し、土味が残る急須や碗、香合などが知られています。東山焼や永世舎とは趣の異なる鷺脚焼の魅力をご紹介します。

展覧会概要

展覧会名称:兵庫陶芸美術館 開館 20 周年記念特別展 東山焼と姫路のやきもの

英文名称:The Museum of Ceramic Art, Hyogo 20th anniversary special exhibition
Tōzan Ware and Himeji Pottery

会 期:2025 年 3 月 15 日(土)~5 月 25 日(日)(62 日間)

休 館 日:月曜日 ※ただし 5 月 5 日(月・祝)は開館し、5 月 7 日(水)は休館。

開 館 時 間:10:00~17:00 ※入館は閉館の 30 分前まで

観 覧 料:一般 1,200 円(900 円)、大学生 900 円(700 円)、高校生以下無料

※()内は、20 名以上の団体割引料金です。

※70 歳以上の方は半額になります。

※障害のある方は 75%割引、その介助者 1 名は無料になります。

会 場:兵庫陶芸美術館 展示室 1・2・4・5

出 品 件 数:約 170 件

主 催:兵庫陶芸美術館、神戸新聞社

後 援:兵庫県、兵庫県教育委員会

協 力:丹波立杭陶磁器協同組合

助 成:令和6年度地域ゆかりの文化資産を活用した展覧会支援事業

関連イベント

◆記念講演会「東山焼と姫路のやきもの」

講 師:山本和人氏(元姫路市書写の里・美術工芸館学芸員)

日 時:5月 17 日(土)13 時 30 分~15 時(開場は 13 時)

会 場:当館研修棟1階 セミナー室

定 員:110 名(事前申込制)

※聴講には本展の観覧券(半券可)が必要です。

◆ワークショップ「暮らしのうつわに染付をしよう」

日 ち:4月 19 日(土)

内 容:小皿2枚に染付

会 場:当館エントランス棟 1 階 工房、展示棟

定 員:20 名(事前申込制、有料)

◆当館学芸員によるギャラリートーク

日時：3月22日(土)、4月5日(土)、4月19日(土)、5月10日(土)

いずれも11時から1時間程度 ※観覧券が必要です。

※各イベントに関する詳細は、お問い合わせください。

お知らせ

◆同時開催のテーマ展

「丹波焼の世界 season9」

開催中～2026年2月23日(月・祝)

◆次回特別展

「博覧会の時代 HYOGO 発、明治の輸出陶磁」

2025年6月7日(土)～8月24日(日)

交通のご案内

[公共交通機関をご利用の場合]

- ・JR福知山線「相野駅」下車後(大阪駅から約50分)
駅前からウイング神姫(路線バス)「兵庫陶芸美術館」「こんだ薬師温泉」または「清水寺」行き乗車約15分、「兵庫陶芸美術館」下車
※相野駅発バス時刻 9:33、10:15、13:10、15:45、16:45
土・日・祝は 10:47、11:30、13:36 が増便(2025年1月現在)

[自動車をご利用の場合]

- ・舞鶴若狭自動車道・三田西ICから約15分、または丹南篠山口ICから約20分
- ・中国自動車道・滝野社ICから国道372号を東へ約30分
- ・阪神方面から国道176号を北上し、三田市四ツ辻信号を左折約15分
- ・駐車場無料(敷地内 普通車58台分)、大型可



【本資料に関するお問い合わせ】

兵庫陶芸美術館 広報担当：企画・事業課 米倉陽子(ヨネクラヨウコ)

展覧会担当：学芸課 岡田享子(オカダキョウコ)

〒669-2135 兵庫県丹波篠山市今田町上立杭4

TEL:079-597-3961 FAX:079-597-3967

E-mail:togei@pref.hyogo.lg.jp URL:https://www.mcart.jp

兵庫陶芸美術館開館 20 周年記念 特別展 **東山焼と姫路のやきもの**



2025 年 3 月 15 日 (土) ~5 月 25 日 (日)

広報画像申込書

送信先 E-mail: togei@pref.hyogo.lg.jp Fax:079-597-3967

兵庫陶芸美術館 企画・事業課 広報担当宛

ご希望の画像番号にチェックを入れ、以下の項目をご記入の上、メールもしくは FAX でお送りください。
 ※読者プレゼント招待券は、写真を掲載し本展をご紹介いただける場合に限りです(最大 5 組 10 名まで)。
 プレゼントの受付・発送などは貴編集部にてお願いいたします。

<p>□1</p>  <p>東山 《染付騎馬人物鹿図鷺耳花瓶》 江戸時代後期～明治時代前期 (19 世紀) 兵庫陶芸美術館 (北後豊子氏寄贈)</p>	<p>□2</p>  <p>東山 《染付山水人物図壺》 江戸時代後期～明治時代前期 (19 世紀) 東京国立博物館 (横河民輔氏寄贈) Image: TNM Image Archives</p>	<p>□3</p>  <p>東山 《青磁獅子形水滴》 江戸時代後期～明治時代前期 (19 世紀) 姫路市書写の里・美術工芸館</p>
<p>□4</p>  <p>永世舎 《色絵雲龍図耳付扁壺 (対)》 明治時代前期 (19 世紀後半) 個人蔵</p>	<p>□5</p>  <p>永世舎 《青釉染付遊魚図大花瓶》 明治時代前期～明治時代中期 (19 世紀後半) 個人蔵</p>	<p>□6</p>  <p>鷺脚(初代) 《貼花茅屋山水図煎茶器 (7 点組)》 明治時代～大正時代(19 世紀後半～20 世紀前半) 姫路市書写の里・美術工芸館</p>

【画像使用に際しての注意事項】

- ◆本展覧会の広報用としての使用に限ります。
- ◆画像の掲載には、各作品のキャプションを明記してください。
- ◆画像の加工 (作品の切り抜き、着色、文字載せ等) はご遠慮ください。
- ◆基本情報、画像使用の確認のため、ゲラ・原稿の段階で「企画・事業課」までお送りくださいますようお願いいたします。
- ◆ご掲載媒体、もしくは URL を「企画・事業課」までご送付いただきますようお願いいたします。

貴社名：

媒体名：

所在地：〒

媒体種別： 新聞・雑誌・フリーペーパー・テレビ

ラジオ・WEB・その他 ()

担当者名：

掲載予定日：

E-mail アドレス：

参考 URL：

TEL：

FAX：

読者プレゼント招待券：

組

名分